

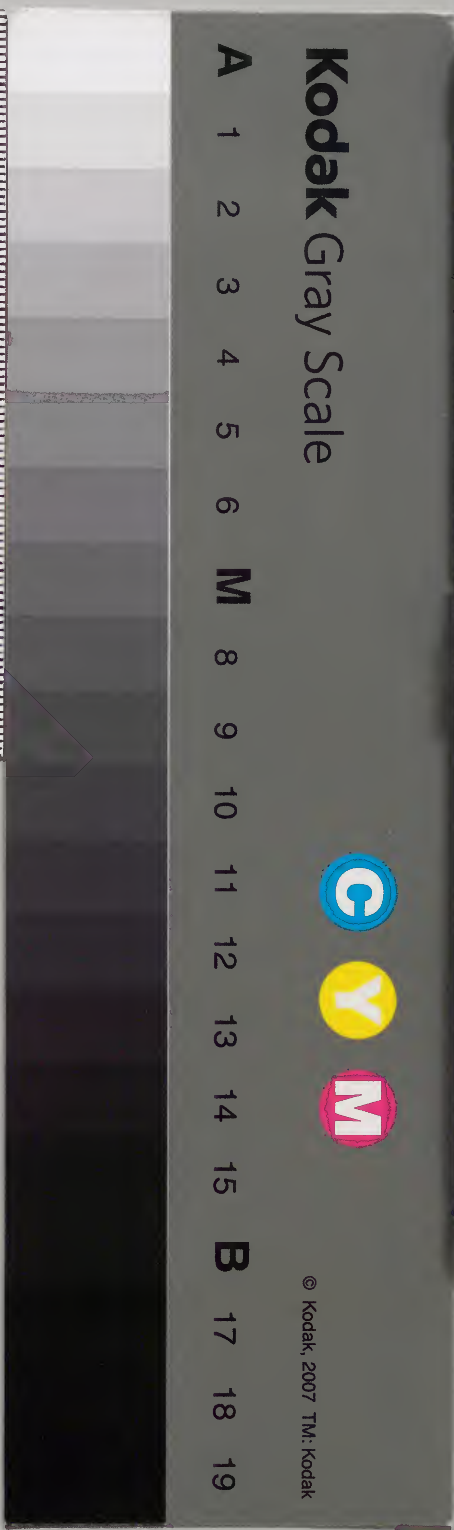
夫木和歌抄

拾一

和書門			
二八三八	二八三八	二八三八	二八三八
類	號	函	架
冊	一七	一七	一七

内閣文庫			
二八三八	二八三八	二八三八	二八三八
類	號	冊	函
架	一七	一七	一七

内閣文庫	
番號	和 28388
冊數	37 (12)
函號	201 1



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side. The characters are faint and difficult to decipher, but appear to be organized into several columns. Some legible characters include '春', '夏', '秋', and '冬', suggesting a seasonal or calendar-related document.

Blank page with visible paper texture and some minor discoloration or staining.

お集

人ぬ

〜海りて其方へはひのたし〜
歌不系を集

先春を白紙に

〜し〜
也き二年たは居ぬ序用と〜

昔〜

〜し〜
歌不系

歌不系

よ〜

〜し〜
中境はた居ぬ我を合ふ

〜し〜
秋のむらさき〜

〜し〜
秋のむらさき〜

秋のむらさき〜

秋のむらさき〜

〜し〜
秋のむらさき〜

秋のむらさき〜

秋のむらさき〜

〜し〜
秋のむらさき〜

〜し〜
秋のむらさき〜

秋のむらさき〜

秋のむらさき〜

〜し〜
秋のむらさき〜

源雅光

わがしるしをばしるしの落しりしあや

天保二年七月日ち長あま合まきた

年とてあまのよはりたる成りしし

遠長二年八月十五日夜三首あ合

後醍醐院御歌

うらたけのあまのよはりたる成りしし

次泉を改る旨

ふんひのあまのよはりたる成りしし

秋のうた

秋のうた

あまのよはりたる成りしし

承久二年ち秋ま福多あ合花

よしんあ

ゆたかあまのよはりたる成りしし

秋のうた

あまのよはりたる成りしし

秋のうた

あまのよはりたる成りしし

後にはち入る国を歌す

あまのよはりたる成りしし

うみくさせぬりしむらりみうらうらふのたの
ぬきま井りのさうりてぬりよと

能因法師

うみくさせぬりしむらりみうらうらふのたの
ぬきま井りのさうりてぬりよと

おあるお首首 如乳法師

うみくさせぬりしむらりみうらうらふのたの
ぬきま井りのさうりてぬりよと

おあるお首首 皇太后文太皇太后

うみくさせぬりしむらりみうらうらふのたの
ぬきま井りのさうりてぬりよと

おあるお首首 皇太后文太皇太后

うみくさせぬりしむらりみうらうらふのたの
ぬきま井りのさうりてぬりよと

おあるお首首 皇太后文太皇太后

うみくさせぬりしむらりみうらうらふのたの
ぬきま井りのさうりてぬりよと

おあるお首首 皇太后文太皇太后

うみくさせぬりしむらりみうらうらふのたの
ぬきま井りのさうりてぬりよと

おあるお首首 皇太后文太皇太后

うみくさせぬりしむらりみうらうらふのたの
ぬきま井りのさうりてぬりよと

おあるお首首 皇太后文太皇太后

うみくさせぬりしむらりみうらうらふのたの
ぬきま井りのさうりてぬりよと

おあるお首首 皇太后文太皇太后

ものよのひのちいさくともあつらふくともさたれぬいづの
寛元四年十孫原の冷野経茂

右名忠吾内教

あつらひのちいさくともあつらふくともさたれぬいづの

後九年内教

あつらひのちいさくともあつらふくともさたれぬいづの

寛元九年又十首忠吾内教

あつらひのちいさくともあつらふくともさたれぬいづの

新由院入乃二首親王内教

源仲光

あつらひのちいさくともあつらふくともさたれぬいづの

源仲光

あつらひのちいさくともあつらふくともさたれぬいづの

建永七年内教

源仲光

あつらひのちいさくともあつらふくともさたれぬいづの

正治二年百首

あつらひのちいさくともあつらふくともさたれぬいづの

源仲光

あつらひのちいさくともあつらふくともさたれぬいづの

源仲光

あつらひのちいさくともあつらふくともさたれぬいづの

源仲光

源氏

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏

源氏物語

源氏物語

源氏

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

おたき

あつたてのうらなひに
あつたてのうらなひに
あつたてのうらなひに
あつたてのうらなひに
あつたてのうらなひに

あつたて

あつたて

あつたてのうらなひに
あつたてのうらなひに
あつたてのうらなひに
あつたてのうらなひに
あつたてのうらなひに

あつたて

あつたてのうらなひに
あつたてのうらなひに
あつたてのうらなひに
あつたてのうらなひに
あつたてのうらなひに

あつたて

あつたてのうらなひに
あつたてのうらなひに
あつたてのうらなひに
あつたてのうらなひに
あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに
あつたてのうらなひに
あつたてのうらなひに
あつたてのうらなひに
あつたてのうらなひに

あつたて

あつたて

あつたてのうらなひに
あつたてのうらなひに
あつたてのうらなひに
あつたてのうらなひに
あつたてのうらなひに

あつたて

あつたて

秋の日はけしきりしつゝあつちのちのち

ひふあ

江親王の歌

秋の日はけしきりしつゝあつちのちのち

六

一

秋の日はけしきりしつゝあつちのちのち

カ七

秋の日はけしきりしつゝあつちのちのち

秋の日はけしきりしつゝあつちのちのち

秋の日はけしきりしつゝあつちのちのち

千首年

秋の日はけしきりしつゝあつちのちのち

秋の日はけしきりしつゝあつちのちのち

後拾遺集

秋の日はけしきりしつゝあつちのちのち

秋の日はけしきりしつゝあつちのちのち

秋の日はけしきりしつゝあつちのちのち

秋の日はけしきりしつゝあつちのちのち

秋の日はけしきりしつゝあつちのちのち

秋の日はけしきりしつゝあつちのちのち

秋の日はけしきりしつゝあつちのちのち

秋の日はけしきりしつゝあつちのちのち

枕詞よらじのあつたをうららのらるやまよま

永久四年百首

沖根伯歌仲々

凡そらりやよハ出のすこ間ハえそそ

建長八年百首

凡九条門大臣

咲物らるむすこつめりそそそそ

弘安元年百首

秋萩のそらあつたをうららのらるやまよま

掃中歌飛百首

山田の歌よらじのあつたをうららのらるやまよま

恒吉社方の合巻百首

沖根伯歌仲々

いよそんまのいよそんまのいよそんまのいよそんま

山来社百首

及系極極改

うららひのいよそんまのいよそんまのいよそんま

兼安三年七月

法性寺入る園白家丹後

うららひのいよそんまのいよそんまのいよそんま

新島院入る

聖文天皇

いよそんまのいよそんまのいよそんまのいよそんま

いよそんまのいよそんまのいよそんまのいよそんま

南の百首

兼安元年

あつみの花うらたよ暇そそ神は浪さす山ねりしは

又治六年五社百首 皇太后天皇天皇御代

あつみの花うらたよ暇そそ神は浪さす山ねりしは

あつみの花うらたよ暇そそ神は浪さす山ねりしは

あつみの花うらたよ暇そそ神は浪さす山ねりしは

皇太后天皇天皇御代 西門院御代

あつみの花うらたよ暇そそ神は浪さす山ねりしは

皇太后天皇天皇御代 西門院御代

あつみの花うらたよ暇そそ神は浪さす山ねりしは

皇太后天皇天皇御代 西門院御代

あつみの花うらたよ暇そそ神は浪さす山ねりしは

皇太后天皇天皇御代 西門院御代

あつみの花うらたよ暇そそ神は浪さす山ねりしは

皇太后天皇天皇御代 西門院御代

あつみの花うらたよ暇そそ神は浪さす山ねりしは

皇太后天皇天皇御代 西門院御代

あつみの花うらたよ暇そそ神は浪さす山ねりしは

皇太后天皇天皇御代 西門院御代

皇太后天皇天皇御代 西門院御代

源神徳

おきり門つもり花とて吹くをいふ感じとよみく花はけり

貞應三年七月百首 氏の内歌

白露りきれば秋のしらけのしほきちりつら

中務の日記

かきれらるるあけのきのきんわさきよそへん

保安三年九月日大臣家より合野

堀河院中より

内侍のいかにあはれとて浦波さき

永久四年七月より合野

二宮同

ゆきよき花とて吹くをいふ感じとよみく花はけり

源氏物語

花はけりいかにあはれとて浦波さき

永久二年七月より合野

二宮同

ゆきよき花とて吹くをいふ感じとよみく花はけり

同日七月忠澄家より合野

ゆきよき花とて吹くをいふ感じとよみく花はけり

百首

ゆきよき花とて吹くをいふ感じとよみく花はけり

二十六年十月

平忠彦宛

花下さるひくく... 秋の文

秋葉

和泉或翁

... 秋の文

... 秋の文

... 秋の文

... 秋の文

... 秋の文

... 秋の文

... 秋の文

... 秋の文

... 秋の文

... 秋の文

... 秋の文

... 秋の文

... 秋の文

... 秋の文

... 秋の文

秋葉

... 秋の文

仁安二年春高直守令著花判云後如

九十一

和名佐原

ささひの種をまればまづ心すそ野にまきくかむり

歌集

西行上人

見まらざるよしののすけらり製志のふれはきんか
けさるそがしむかむれの海もさる月のあつみの白

文治二年百首

兼中納言定家

あふさうの薄さうらみ秋のさうらもあひひさるん

五竹十又首西とひさるん

秋らたつひつ野のむすこはのたてはひの月の光

多國野と作あり

大僧長徳

九
はらやまの尾花吹ふ秋月しひとあふさうら

建保三年又百首 後二位家隆

も國のむれ秋とさうらさうらしひさうらさうら

百首

後二位家隆

おもひの秋さうらさうら秋さうらさうらさうら

歌集あはは原よりて兼中納言定家

さうらさうらさうらさうらさうらさうらさうら

歌集秋十中

さうらさうらさうらさうらさうらさうらさうら

久安百首 西門院右系

兼安五年三月重家百首合連右系

紀康宗

百首百首

門当社百首合連

千五百首百首合判四首

千五百首百首合判四首 西門院右系

百首百首

西門院右系

西門院右系

西門院右系

西門院右系

西門院右系

西門院右系

西門院右系

西門院右系

西門院右系

西門院右系

西門院右系

建保三年八月百首 後三位花実

ひさし月新ありきられりおびり人の家たき

浪のしる好し海邊のいそぎふれりあぬ多

後安三年九月十二日圓白殿の合座意判

後松基後

あはせよおとらりす白濁のこわくぬき

いさか入後松といしすいこころの地

下をき 基後ふき

建保二年八月廿八日高根方の合

後大洲公

仲之太物長家

あはれのみそれ園のあひさうた今よりいす

建保二年八月廿八日高根方の合

いさか入後松といしすいこころの地

下をき 基後ふき

建保二年八月廿八日高根方の合

後大洲公

あはれのみそれ園のあひさうた今よりいす

建保二年八月廿八日高根方の合

いさか入後松といしすいこころの地

小治政の百首

秋のあはれをいそいでるさびのさびのさびのさび

秋のあはれをいそいでるさびのさびのさびのさび

秋のあはれをいそいでるさびのさびのさびのさび

秋のあはれをいそいでるさびのさびのさびのさび

秋のあはれをいそいでるさびのさびのさびのさび

秋のあはれをいそいでるさびのさびのさびのさび

秋のあはれをいそいでるさびのさびのさびのさび

秋のあはれをいそいでるさびのさびのさびのさび

秋のあはれをいそいでるさびのさびのさびのさび

秋のあはれをいそいでるさびのさびのさびのさび

秋のあはれをいそいでるさびのさびのさびのさび

秋のあはれをいそいでるさびのさびのさびのさび

秋のあはれをいそいでるさびのさびのさびのさび

秋のあはれをいそいでるさびのさびのさびのさび

秋のあはれをいそいでるさびのさびのさびのさび

秋のあはれをいそいでるさびのさびのさびのさび

秋のあはれをいそいでるさびのさびのさびのさび

秋のあはれをいそいでるさびのさびのさびのさび

家業承りて 持仲の御書奉り

と申す御書奉りて 御書奉りて 御書奉りて

後醍醐天皇

御書奉りて 御書奉りて 御書奉りて

鴨居

御書奉りて 御書奉りて 御書奉りて

御書奉りて 御書奉りて 御書奉りて

御書奉りて 御書奉りて 御書奉りて

御書奉りて 御書奉りて 御書奉りて

御書奉りて 御書奉りて 御書奉りて

御書奉りて 御書奉りて 御書奉りて

御書奉りて 御書奉りて 御書奉りて

御書奉りて 御書奉りて 御書奉りて

御書奉りて 御書奉りて 御書奉りて

御書奉りて 御書奉りて 御書奉りて

御書奉りて 御書奉りて 御書奉りて

御書奉りて 御書奉りて 御書奉りて

御書奉りて 御書奉りて 御書奉りて

御書奉りて 御書奉りて 御書奉りて

御書奉りて 御書奉りて 御書奉りて

文治三年百首抄巻之四 内巻

花もさかえぬ物ぞなほの里もさかえぬ

貞治三年百首連歌

さしこのいさよふたねのこゝろはのあつかり

千首一

あもさう方のたのみのあはれはちよりのたのしみ

安永年中抄林花

隆徳の長

あつきのこゝろは吹くよかたふりてのあつきの

家永末彦次

光後約長

つり子の歌吹くころは花のさつきのさかえぬ

長年

一

^{万九}けいこにさかえぬはかりのあつきのさかえぬ

新萱

文治六年五社百首抄巻之五 白太君と文太君御歌

さかたのさかえぬはかりのあつきのさかえぬ

連歌百首

あつきのさかえぬはかりのあつきのさかえぬ

文治二年百首

年中約長定家

さかたのさかえぬはかりのあつきのさかえぬ

子の百首文治

新陽門院歌

秋の夕べの静けさよ

文和四年毎百一首中一民の由歌

あはれみよしの秋の夕べの静けさよ

秋葉林の中

秋の夕べの静けさよ

秋葉

あはれみよしの秋の夕べの静けさよ

秋葉林の中

あはれみよしの秋の夕べの静けさよ

秋葉林の中

あはれみよしの秋の夕べの静けさよ

あはれみよしの秋の夕べの静けさよ

あはれみよしの秋の夕べの静けさよ

あはれみよしの秋の夕べの静けさよ

あはれみよしの秋の夕べの静けさよ

あはれみよしの秋の夕べの静けさよ

あはれみよしの秋の夕べの静けさよ

あはれみよしの秋の夕べの静けさよ

あはれみよしの秋の夕べの静けさよ

義

家業はくさくさ

え真

此の義のゆゑに世に名をたてしもの

秋田守 是國に入る國也

義のゆゑに世に名をたてしもの

此義院のゆゑに世に名をたてしもの

此の義のゆゑに世に名をたてしもの

此の義のゆゑに世に名をたてしもの

此の義のゆゑに世に名をたてしもの

文治三年十月廿一日

國運のゆゑに世に名をたてしもの

文治三年十月廿一日

えいひんあつたの月よき夜に花吹雪の如く

文治三年十月廿一日

此の義のゆゑに世に名をたてしもの

武平の親王の如く

えいひんあつたの月よき夜に花吹雪の如く

文治三年十月廿一日

仲津波ありけり

文部省
多傷曰天子院之古也

あつてはしるすはしるすのなまらねるありとす

十部百首百一 行高後折改

あつてはしるすはしるすのなまらねるありとす

和泉武部

あつてはしるすはしるすのなまらねるありとす

積丸茶

あつてはしるすはしるすのなまらねるありとす

あつてはしるすはしるすのなまらねるありとす

あつてはしるすはしるすのなまらねるありとす

文部省

あつてはしるすはしるすのなまらねるありとす

及系極折改

あつてはしるすはしるすのなまらねるありとす

大治三年八月廣田社

あつてはしるすはしるすのなまらねるありとす

あつてはしるすはしるすのなまらねるありとす

久安五年八月

あつてはしるすはしるすのなまらねるありとす

あつてはしるすはしるすのなまらねるありとす

のり 歌集 藤原

指中 納言 藤原

わがこころをさかしてかきしるるはむらさきの花の香

和久二年丁未秋九月廿五日合拈

わがこころをさかしてかきしるるはむらさきの花の香

わがこころをさかしてかきしるるはむらさきの花の香

わがこころをさかしてかきしるるはむらさきの花の香

わがこころをさかしてかきしるるはむらさきの花の香

わがこころをさかしてかきしるるはむらさきの花の香

わがこころをさかしてかきしるるはむらさきの花の香

和久二年丁未秋九月廿五日合拈

有系花魁

わがこころをさかしてかきしるるはむらさきの花の香

和久二年丁未秋九月廿五日合拈

わがこころをさかしてかきしるるはむらさきの花の香

和久二年丁未秋九月廿五日合拈

わがこころをさかしてかきしるるはむらさきの花の香

和久二年丁未秋九月廿五日合拈

わがこころをさかしてかきしるるはむらさきの花の香

和久二年丁未秋九月廿五日合拈

多のあしとてあわししのせしひらちあわれ御の

貞治二年百首花門 九条門下

つらとあはれ日あつての里にねとれまよくはあはれ

千五百首あふ合 吾後雅經

あつた又あつたのさなきまよきにはとれあはれ

あつた又あつたのさなきまよきにはとれあはれ

建保三年百首 右京康光

あつた又あつたのさなきまよきにはとれあはれ

正治二年百首 源順光

あつた又あつたのさなきまよきにはとれあはれ

九条門下

年中初

あつた又あつたのさなきまよきにはとれあはれ

あつた又あつたのさなきまよきにはとれあはれ

あつた又あつたのさなきまよきにはとれあはれ

あつた又あつたのさなきまよきにはとれあはれ

あつた又あつたのさなきまよきにはとれあはれ

あつた又あつたのさなきまよきにはとれあはれ

あつた又あつたのさなきまよきにはとれあはれ

あつた又あつたのさなきまよきにはとれあはれ

蘭とてんくわんこくはるゆーとされハ真贋詩よ

夢断燕姬晓枕薰とつりまりこれらめ

わわしんとう

千五百番の合 那又凡二居

から縹ゆらういひこころいひんれあてくる秋のうら

けの判え云鄭文公之妾にる一之妻也

昔のと燕姫とつりまり上天使とつり

茶とゆいこころとゆいさとゆいみせと

まこととゆいこころとゆいさとゆいみせと

つりひりつりつりつりつりつりつりつりつり

文治三年五月廿百首 小倉古文書院蔵

うらうらゆきおほくはにじふよるまゝしやとせり

ゆらうらゆきおほくはにじふよるまゝしやとせり

うらうらゆきおほくはにじふよるまゝしやとせり

うらうらゆきおほくはにじふよるまゝしやとせり

大治三年八月廣田社令蘭意

源仲房

あかとはかおほくはにじふよるまゝしやとせり

文治三年五月廿百首 大正盤虎

あか

みまのむらさきのまのむらさき
其仁二年上月に書きたる合蘭

横紙

からくはむらさき
百首

からくはむらさき
文集前頭又有蒲條物 老菊裏蘭兩

三藜

此の書はむらさきのむらさき

歌集

六条院

からくはむらさき

老菊裏蘭

兼中

からくはむらさき

歌集

兼中

からくはむらさき

貞應三年 百首

からくはむらさき

千五百首

西園寺

からくはむらさき

百首

中勢

かゝるものみゝたりしれら緒たなむらうのしり

草一番

和之四年百首草香 友京忠彦

まゝりかゝりしわらわらむらうあさけはあきなり

源重信

秋のそびしはかりくさくさのまゝりぬらん秋夜は

二条若らむを友京忠彦

秋袖よまのうらうら秋の野のふひゆの露のうらうら

三條院大進

かゝるものみゝたりしれら緒たなむらうのしり

秋葉のうらうら 元真

あゝ秋のうらうらくさくさのまゝりぬらん秋夜は

秋葉

建長五年百首草香 秋花 民乃内家

あゝ秋のうらうらくさくさのまゝりぬらん秋夜は

あゝ秋のうらうらくさくさのまゝりぬらん秋夜は

文永四年百首草中

あゝ秋のうらうらくさくさのまゝりぬらん秋夜は

並一首三十一首

前中細くはあき

あゝ秋のうらうらくさくさのまゝりぬらん秋夜は

建長八年百首寺合後一位良教

此の御書はむのちのりつとてよきことよきことなりや

建久元年和合寺百首寺合後書

正徳元年和合寺百首寺合後書

あき處の御書はむのちのりつとてよきことよきことなりや

正徳三年百首寺合後書

あき處の御書はむのちのりつとてよきことよきことなりや

前大納言隆房

かみ書成の御書はむのちのりつとてよきことよきことなりや

源氏物語

源氏物語

此の御書はむのちのりつとてよきことよきことなりや

源氏物語

あき處の御書はむのちのりつとてよきことよきことなりや

兼安三年法橋寺合後書

實徳法師

あき處の御書はむのちのりつとてよきことよきことなりや

建保三年日叢十首寺合後書

前中納言隆房

あき處の御書はむのちのりつとてよきことよきことなりや

後大納言

あつたてのしるしをたづねて

御書付のしるし

後二頁のしるし

あつたてのしるしをたづねて

御書付のしるし

後二頁のしるし

あつたてのしるしをたづねて

御書付のしるし

あつたてのしるしをたづねて

御書付のしるし

後二頁のしるし

あつたてのしるしをたづねて

御書付のしるし

あつたてのしるしをたづねて

御書付のしるし

後二頁のしるし

あつたてのしるしをたづねて

御書付のしるし

御書付のしるし

御書付のしるし

御書付のしるし

あはれなる御心...
あはれなる御心...
あはれなる御心...
あはれなる御心...
あはれなる御心...
あはれなる御心...
あはれなる御心...
あはれなる御心...
あはれなる御心...
あはれなる御心...

中納言 藤原 隆家

謹花

隆家

隆家

文治三年...
文治三年...
文治三年...
文治三年...
文治三年...
文治三年...
文治三年...
文治三年...
文治三年...
文治三年...

百首

隆家

百首...
百首...
百首...
百首...
百首...
百首...
百首...
百首...
百首...
百首...

百首

隆家

